



## 2023年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年8月4日

上場会社名 株式会社 秀英予備校  
コード番号 4678 URL <https://www.shuei-yobiko.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡辺 武  
問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 渡辺 喜代子

TEL 054-252-1792

四半期報告書提出予定日 2022年8月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	2,074	1.8	451		448		460	
2022年3月期第1四半期	2,112	2.7	494		494		547	

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 460百万円 ( %) 2022年3月期第1四半期 550百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	68.68	
2022年3月期第1四半期	81.66	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第1四半期	10,048	4,117	41.0	613.60
2022年3月期	10,700	4,618	43.2	688.30

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 4,117百万円 2022年3月期 4,618百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		6.00	6.00
2023年3月期					
2023年3月期(予想)		0.00		10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,950	0.1	270		266		296		44.11
通期	11,120	2.0	550	25.2	556	27.5	395	845.4	58.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	6,710,000 株	2022年3月期	6,710,000 株
期末自己株式数	2023年3月期1Q	319 株	2022年3月期	319 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	6,709,681 株	2022年3月期1Q	6,709,681 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、未だ収束の兆しが見えない新型コロナウイルス禍に加え、ロシアのウクライナ侵攻を起因とする天然ガス、石油などの資源高により景気後退が懸念され、先行不透明な状況となっております。当業界におきましては、コロナ禍においても学習を継続できる形態の工夫・開発が進み、ウィズコロナの状況となっており、市場規模は概ね回復するところとなっております。

当社におきましては、授業と授業以外の教育サービスを量・質ともに向上させることにより、入塾者数の増加、年度途中での退塾者数の減少に努めてまいりました。結果として、小中学部は前年を上回る生徒数を確保しております。また、高校部はほぼ前年と同じ生徒数となっております。

当社グループの経営の柱は、

#### ① 小中学部

- （i）集団部門は、授業と授業以外の教育サービスの質を向上させ、成績・合格実績を確実に上げること
- （ii）個別（講師・映像）部門は、差別化戦略をさらに進化させ顧客満足度を向上させること
- （iii）小学生英語の教科化に伴った教務対応を行うこと

#### ② 高校部

多様なニーズに対応した教育メソッドを提供すること

#### ③ コロナ後の新常态に対応した新しいメソッドを開発すること

であります。

当第1四半期連結累計期間におきましては、小中学部は、年間の業績に直結する夏期講習の一般生募集と講習生の入学活動を最重点課題として取り組んでまいりました。募集状況は、前年を大きく上回るところとなっております。高校部は、授業料単価の高い高3受験学年の生徒数が前年を少し下回っており、夏期一般生募集と9月入学生の確保が年間売上予算達成にとって重要な課題となっております。

営業費用におきましては、電気料金の値上げによる水道光熱費の増加があるものの、教材費等の削減、前期に英語4技能対策アプリ導入に伴うタブレット端末機器購入による事務用消耗品費の発生があったため、全体として減少するところとなりました。

営業外損益におきましては、大きな変動はありません。

以上の結果、当社グループの当第1四半期連結累計期間の売上高は2,074百万円（前年同四半期は2,112百万円）、営業損失は451百万円（前年同四半期は営業損失494百万円）、経常損失は448百万円（前年同四半期は経常損失494百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は460百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失547百万円）となりました。

なお、季節的変動要因として、当社グループの生徒数は、小中学部・高校部ともに夏期講習・冬期講習等の講習に参加した一般生がそれぞれ9月、1月に入学するため、第2四半期以降に増加するところとなっております。一方、営業費用につきましては、人件費・賃借料等が毎月固定的に発生いたします。したがって、第1四半期の収益性は第2四半期以降に比べて低くなっております。

セグメントの業績を示すと次のとおりであります。

#### （小中学部）

小中学部におきましては、予算どおりの売上高となっております。要因は、授業と授業以外の教育サービスの向上により、集団部門における生徒数を減少から増加に転じられたこと、個別部門の生徒数を、既存校において増加できていることであります。一方、営業費用につきましては、教材費等の削減をしたことにより、前年を下回るところとなっております。結果として、小中学部の売上高は1,757百万円（前年同四半期は1,788百万円）、セグメント損失は217百万円（前年同四半期はセグメント損失240百万円）となりました。

#### （高校部）

高校部におきましては、予算を少し下回る売上高となっております。要因は、受講単価の高い高3受験学年の生徒数が予算を少し下回っているためであります。営業費用につきましては、水道光熱費等の増加により、前年を上回るところとなっております。結果として、高校部の売上高は300百万円（前年同四半期は308百万円）、セグメント損失は2百万円（前年同四半期はセグメント利益13百万円）となりました。

(その他の教育事業)

FC部門におきましては、予算を少し下回る生徒数となっており、売上高は予算未達となっておりますが、SV活動はリモートワークを中心としており、営業費用を削減できております。結果として、その他の教育事業の売上高は16百万円(前年同四半期は15百万円)、セグメント利益は5百万円(前年同四半期はセグメント利益2百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて582百万円減少し、1,896百万円となりました。これは主として、季節的変動要因において第1四半期の収益性が低くなることにより現預金が減少したためであります。また、3月新年度入学生の初回授業料及び春期講習受講料の回収により、売掛金も減少しております。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて68百万円減少し、8,143百万円となりました。これは主として、有形固定資産の減価償却が進んだこと、前期末、移転・閉鎖校舎の敷金及び保証金が回収されたためであります。

この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べて651百万円減少し、10,048百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて82百万円減少し、2,849百万円となりました。これは主として、短期借入金の返済が進んだためであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて68百万円減少し、3,081百万円となりました。これは主として、長期借入金の返済が進んだためであります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べて150百万円減少し、5,931百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて501百万円減少し、4,117百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の43.2%から41.0%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては2022年5月12日に公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想の変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,861,506	1,415,229
受取手形、売掛金及び契約資産	139,792	50,127
商品	94,603	72,835
貯蔵品	14,574	14,555
その他	374,721	347,485
貸倒引当金	△5,850	△3,540
流動資産合計	2,479,348	1,896,693
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,493,664	2,460,861
土地	3,301,493	3,301,493
その他(純額)	84,441	95,302
有形固定資産合計	5,879,599	5,857,658
無形固定資産		
	109,719	91,074
投資その他の資産		
敷金及び保証金	1,879,342	1,853,694
退職給付に係る資産	228,203	232,183
その他	118,459	111,880
貸倒引当金	△2,956	△2,963
投資その他の資産合計	2,223,048	2,194,794
固定資産合計	8,212,367	8,143,527
繰延資産		
社債発行費	9,023	8,522
繰延資産合計	9,023	8,522
資産合計	10,700,740	10,048,743
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	545,000	465,000
1年内償還予定の社債	50,000	50,000
1年内返済予定の長期借入金	377,580	327,580
未払金	581,577	569,156
未払法人税等	111,573	30,615
契約負債	602,275	664,630
賞与引当金	159,107	46,006
店舗閉鎖損失引当金	6,729	300
その他	498,260	696,626
流動負債合計	2,932,102	2,849,915

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>固定負債</b>		
社債	250,000	250,000
長期借入金	347,298	302,903
繰延税金負債	78,934	78,727
退職給付に係る負債	884,368	889,079
資産除去債務	600,914	603,429
その他	988,832	957,586
固定負債合計	3,150,348	3,081,725
<b>負債合計</b>	<b>6,082,451</b>	<b>5,931,640</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	2,089,400	2,089,400
資本剰余金	1,835,655	1,835,655
利益剰余金	674,415	173,290
自己株式	△154	△154
株主資本合計	4,599,316	4,098,190
<b>その他の包括利益累計額</b>		
退職給付に係る調整累計額	18,972	18,911
その他の包括利益累計額合計	18,972	18,911
純資産合計	4,618,289	4,117,102
<b>負債純資産合計</b>	<b>10,700,740</b>	<b>10,048,743</b>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
売上高	2,112,131	2,074,651
売上原価	2,212,615	2,164,784
売上総損失(△)	△100,484	△90,133
販売費及び一般管理費	394,335	361,443
営業損失(△)	△494,819	△451,577
営業外収益		
受取利息	3,082	2,250
受取賃貸料	4,155	4,036
その他	5,460	6,492
営業外収益合計	12,699	12,779
営業外費用		
支払利息	9,188	6,625
その他	2,859	2,647
営業外費用合計	12,048	9,272
経常損失(△)	△494,168	△448,070
特別損失		
店舗閉鎖損失引当金繰入額	40,200	-
特別損失合計	40,200	-
税金等調整前四半期純損失(△)	△534,368	△448,070
法人税、住民税及び事業税	13,915	12,978
法人税等調整額	△346	△181
法人税等合計	13,568	12,797
四半期純損失(△)	△547,937	△460,867
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△547,937	△460,867



四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
四半期純損失(△)	△547,937	△460,867
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	△2,362	△60
その他の包括利益合計	△2,362	△60
四半期包括利益	△550,299	△460,928
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△550,299	△460,928
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			
	小中学部	高校部	その他の教育事業	計
売上高				
集団(黒板を使った集団授業)	905,322	292,733	—	1,198,055
iD(映像を使った個別授業)	247,116	—	—	247,116
個別(講師による個別指導)	625,932	—	—	625,932
その他	9,652	15,639	15,734	41,026
顧客との契約から生じる収益	1,788,024	308,372	15,734	2,112,131
外部顧客への売上高	1,788,024	308,372	15,734	2,112,131
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	4,939	4,939
計	1,788,024	308,372	20,673	2,117,070
セグメント利益又は損失(△)	△240,951	13,710	2,695	△224,545

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	△224,545
セグメント間取引消去	7,026
全社費用(注)	△277,300
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△494,819

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			
	小中学部	高校部	その他の教育事業	計
売上高				
集団(黒板を使った集団授業)	911,834	287,947	—	1,199,782
iD(映像を使った個別授業)	235,191	—	—	235,191
個別(講師による個別指導)	604,434	—	—	604,434
その他	5,876	12,775	16,590	35,243
顧客との契約から生じる収益	1,757,337	300,723	16,590	2,074,651
外部顧客への売上高	1,757,337	300,723	16,590	2,074,651
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	4,892	4,892
計	1,757,337	300,723	21,482	2,079,543
セグメント利益又は損失(△)	△217,375	△2,839	5,645	△214,570

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	△214,570
セグメント間取引消去	7,018
全社費用(注)	△244,025
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△451,577

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。